

科目名	商業科教育法 I Teaching Methods of Commercial Studies I						
科目担当者	出山 実 IDEYAMA MINORU						
単位数	2	配当年次	2	授業形態	講義／演習	開講学期	後期
履修学部・学科 [区分] 他学部他学科履修	経営学部・経営学科 [専門教育科目 自由科目] 他学部他学科履修×					ディプロマポリシーとの関連	(4)(6)
授業の概要	本講義では、商業科教員になるために必要な知識・指導方法等について講義する。授業前半は、商業教育の変遷を踏まえて、商業教育の意義や役割、学習指導要領の理解を図り、指導計画の作成に関する知識を習得し学習指導案の作成を行う。後半は、具体的な授業場面を想定した模擬授業を実施し、授業改善の視点を身につけるとともに、質の高い講義を展開できる実践力を養う。また、商業教育の現状と課題を認識し、これからの商業教育の在り方について学習する。						
授業の到達目標	①商業教育の意義や役割について理解して、説明できるようになる。 ②学習指導要領（目標・構成・各教科の目標・内容とその取扱い等）について理解して、説明できるようになる。 ③学習指導案の基本的な構成を理解し、教材研究や情報機器の活用等を取り入れた学習指導案が作成できるようになる。 ④学習指導案をもとに模擬授業を行うことができ、主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善の視点を身につけることができる。 ⑤商業科教員として、望ましい態度・責任感・規範意識などを身につけることができる。						
授業計画・内容	1	ガイダンス・商業教育の意義					
	2	学習指導要領にみる商業科目の変遷					
	3	学習指導要領の理解と学習内容（総則/基礎的科目）					
	4	〃（マーケティング分野の科目）					
	5	〃（会計分野の科目）					
	6	〃（マネジメント分野の科目）					
	7	〃（ビジネス情報分野の科目）					
	8	指導計画・指導形態・指導方法					
	9	学習指導案の作成：基本的な構成					
	10	学習指導案の作成：本時案の作成					
	11	マイクロティーチング①：指導案の検討					
	12	マイクロティーチング②：授業の実施					
	13	マイクロティーチング③：授業の振り返り					
	14	学習評価					
	15	まとめと振り返り					
授業外学修 (事前学修)	授業に関して教科書をもとに予習に励むとともに、日本経済新聞等の経済面を読んで、分からないことを調べておくこと。(毎週 2 時間程度)						
授業外学修 (事後学修)	毎回学修内容を振り返るとともに常に商業教育に関する情報収集に努め、時事問題深掘りして考える習慣をつけるとともに、教材研究に努め学習指導案の作成に取り組む。(毎週 2 時間程度)						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率	到達目標との対応	
	定期考査（レポート）				30%	①	
	学習指導案の作成・マイクロティーチング ミニッツペーパーの提出（毎時間）				40%	③④	
					30%	①②③④⑤	
成績評価基準	秀：（評点 90 点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点 80 点～89 点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点 70 点～79 点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点 60 点～69 点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点 60 点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	西村 修一（監修）『商業科教育法—理論と実践—』東京法令出版 文部科学省『高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）解説 商業編』 実教出版 文部科学省検定済教科書『ビジネス基礎』（商業 701） 実教出版 文部科学省検定済教科書『ビジネス・マネジメント』（商業 706） 実教出版 文部科学省検定済教科書『新簿記』（商業 709）						

参考文献	文部科学省：『高等学校学習指導要領』 国立教育政策研究所教育課程研究センター『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 高等学校専門教科』
その他	・教職課程における学校見学およびスクールトライアル事業に参加すること。 ・出席時間数が授業時間数の5分の4以上の場合に、成績評価及び単位付与判定を受ける資格を付与する。